

日本画 京都の 夢二と

2017.2.18(土) — 3.26(日)

【プレスリリースのお問合せ】 展覧会担当：山本・森谷 広報担当：大庭・青木



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518

岡山県出身の竹久夢二（1884-1934）は、明治34（1901）年に単身上京、苦学しながら雑誌に投稿した文章や絵が認められ、明治42（1909）年に『夢二画集 春の巻』を出版し人気を集めました。

出版物での活躍から出発した夢二が、初めて肉筆画やスケッチを披露したのは大正元（1912）年のこと。記念すべき初個展の会場は京都府立図書館でした。また、大正5（1916）年11月から2年間京都に住み、大正7（1918）年には府立図書館で再び個展を開くなど、京都に足跡を残しています。

明治末期から大正にかけての京都では、日本画と西洋絵画の融合をはかった竹内栖鳳^{たけうちせいほう}や、気品溢れる美人画を描いた上村松園^{うえむらしやうえん}らが充実した制作ぶりを見せていました。より若い世代の土田麦僊^{つちだばくせん}や小野竹喬^{おのちつきょう}たちはゴーヤンやセザンヌらの作品に影響を受け斬新な日本画を模索し、国画創作協会の創立へと進みました。

本展では、こうした時代の京都に夢二が滞在したことに注目し、夢二の作品と資料約80点に京都の日本画約40点を合わせた約120点を一堂にご紹介します。夢二の京都滞在から100年を経た節目に、画壇とは異なる活躍の場を求めた夢二と、京都画壇の作品を引き合わせ、同時代の表現として捉え直すことを試みます。

【開催概要】

- ◆会期 : 2017年2月18日（土）-3月26日（日）
- ◆休館日 : 毎週月曜日（ただし3月20日は開館）、3月21日（火）
- ◆開館時間 : 10:00~19:00（入場は閉館の30分前まで）
- ◆観覧料 : 一般1,000（800）円、大高生・70歳以上700（500）円、中学生以下無料
 ※（ ）は、前売および20名以上の団体料金（団体券は来館当日に限り購入可能）。
 ※障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料。
- ◆前売券 : 2016年12月10日（土）から2017年2月17日（金）まで以下の箇所にて販売
 静岡市美術館、チケットぴあ（Pコード767-942）、ローソンチケット（Lコード45661）、セブンチケット、谷島屋呉服町本店、谷島屋マークイズ静岡店、戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、江崎書店パルシェ店、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店
- ◆主催等 : 主催 静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送／後援 静岡市教育委員会、静岡県教育委員会／特別協賛 清水銀行

【見どころ】

（1）5年ぶりの公開となる静岡市美術館所蔵品に加え、京都国立近代美術館、三鷹市等が所蔵する夢二の作品、書簡、装丁本など合計約80点を公開。詩情あふれる作品世界を紹介します。

（2）近代の京都画壇の優れたコレクションを持つ京都市美術館より、竹内栖鳳、上村松園などの日本画の代表的作品約40点を借用。優れた技術に裏付けられた風景画、人物画、花鳥画の名品が勢揃いします。

（3）夢二がいた頃、すなわち大正時代の京都では様々な個性が花開きました。個人の自由な表現への欲求が高まった、若々しい時代の雰囲気をお楽しみ下さい。

【展覧会内容】

◆第1章 夢二—京都滞在まで



『夢二画集』、第1回夢二展覧会関係資料、大正初期の肉筆画、日記、書簡、装幀本などにより、大正7年に京都を去るまでの夢二の足跡をたどります。夢二の描いた、眼の大きな細身の女性像は「夢二式美人」として一世を風靡しました。

(左) 竹久夢二《草に憩う女》

大正初期

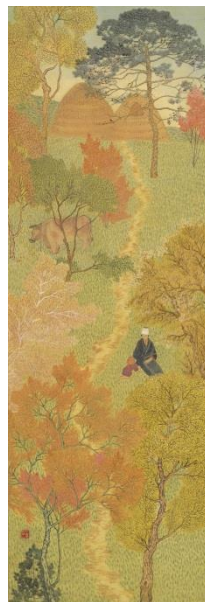
(右) 竹久夢二《木に寄る女》

大正4年頃

いずれも静岡市美術館蔵

◆第2章 京都の日本画1—伝統と革新

京都画壇の画家たちも、大衆画家である夢二も、海外の情報が次々と入り、個人の独立と自由への意識が高まった時代をともに生きていました。この章では、夢二がいた時代の京都で活躍していた画家たちの代表的作品を紹介します。(出品作家：富岡鉄斎、竹内栖鳳、山元春挙、上村松園、富田溪仙、土田麦僊、小野竹喬、村上華岳、梶原緋佐子など)



(左) 竹内栖鳳
《絵になる最初 (下絵)》
大正2年 重要文化財
※3月5日まで展示

(中) 上村松園《待月》
大正15年

(右) 小野竹喬
《南島四季のうち春秋》
大正2年
いずれも京都市美術館蔵

◆第3章 京都の日本画2—さまざまな美人画

大衆の間で夢二が人気を誇った時代以降、アカデミックな絵画
 展覧会においても美人画は盛んに描かれていました。たとえば、
 昭和9年に描かれた菊池契月の《散策》には洋犬を散歩させる
 少女の明朗でモダンなたたずまいが描かれており、愁いに満ち
 た夢二式美人とは違った美意識が表されています。

(出品作家：上村松園、伊藤小坡、菊池契月、西山翠嶂、
 木村斯光、案本一洋、林司馬、秋野不矩)



菊池契月《散策》昭和9年
 京都市美術館蔵

◆第4章 夢二—大正から昭和へ

大正7年秋、夢二は京都を離れ東京へと戻りました。大正12(1923)年の
 関東大震災により夢二たちが準備していたデザイン会社が営業開始直前に全
 焼する悲劇に見舞われたことや、度重なる私生活上のスキャンダルにより、
 夢二の大衆画家としての人気は時代が大正から昭和へと移る頃には衰えてい
 ました。しかし、2年間の京都滞在は、京洛風景や舞妓のモチーフとしてそ
 の後の夢二の制作の糧であり続けました。そのことは、《鴨東夜花》や日本郵
 船のためにデザインしたメニューの台紙といった作品が証明しています。

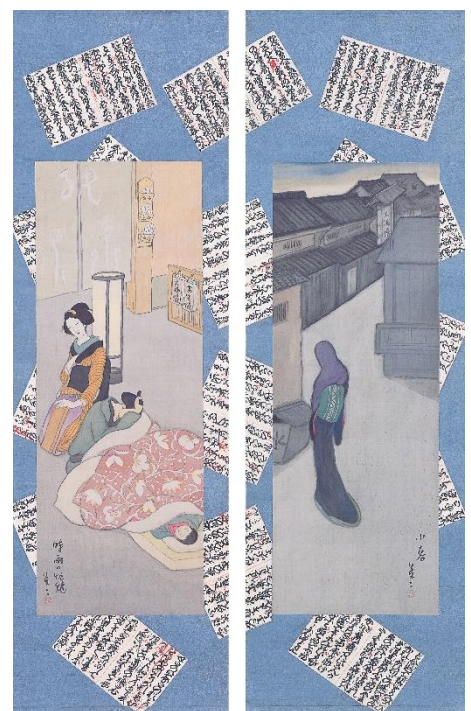


竹久夢二《秩父丸メニュー》
 昭和初期 三鷹市蔵(高相コレクション)

竹久夢二《鴨東夜花》
 大正後期 静岡市美術館蔵



竹久夢二《小春・時雨の炬燵》
 大正7年頃 静岡市美術館蔵



【関連イベント】

1. 講演会① 京の「美人画」

日時：2月25日（土）14：00～

（開場 13：30、1時間半程度）

講師：尾崎真人氏（京都市美術館学芸課長）

会場：当館多目的室

参加料：無料 定員：70名

申込締切：2月10日（金）

2. 講演会② 新たな夢二像を探って

日時：3月4日（土）14：00～

（開場 13：30、1時間半程度）

講師：山野英嗣氏（新居浜市美術館館長）

会場：当館多目的室 参加料：無料 定員：70名

申込締切：2月17日（金）

1、2申込み方法

静岡市美術館ホームページ申込フォームまたは往復はがきにて、1件につき4名様までお申込み可能。

往復はがき記載事項

①催事名、催事日 ②氏名（参加人数分） ③年齢 ④住所（郵便番号から） ⑤電話番号

返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。

※応募者多数の場合は抽選となります。抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。

3. ミュージウムコンサート「夢二を歌う」

夢二の装画で知られるセノオ楽譜の作品を中心に、日本のうた、クラシックの名曲をお届けします。

日時：2月26日（日）15：00～

（開場 14：30、1時間半程度）

出演 山田祐規子（ソプラノ）、大石啓（ピアノ）

曲目 多忠亮：〈宵待草〉（竹久夢二ほか詞）、山田耕筰：〈からたちの花〉、W.A モーツァルト：〈すみれ〉

K.476、G.ヴェルディ：歌劇《椿姫》より ほか

会場：当館多目的室

参加料：全自由 500円（未就学児入場不可）

定員：70名

12月17日（土）より静岡音楽館 AOI（054-251-2200）、静岡市美術館（054-273-1515）にて販売。

4. 学芸員によるギャラリートーク

日時：3月5日（日）、3月18日（土）いずれも14：00～（30分程度）

参加料：無料（要観覧券）

申込不要（当日受付前にお集まりください）

5. しずびオープンアトリエ

展覧会に関連したオリジナル創作プログラム。

日時：2月18日（土）～3月26日（日）の毎週土・日曜日

いずれも①13：30～②15：00～（各回1時間程度）

対象：小学生以上 各回15名（申込不要・当日先着順）

会場：当館ワークショップ室

参加料：200円（受付でチケットご購入の上、会場へ）

6. しずびチビッコプログラム

小さな子どものためのアート体験プログラム。保護者の方は展覧会をご覧ください。

日時：3月20日（月・祝）

①10：30～12：00 ②14：00～15：30

対象・定員：2歳以上の未就学児 各10名

会場：当館ワークショップ室

参加料：子ども1名につき500円（保護者の方は要観覧券）

申込み締切：3月3日（金）必着

※ホームページ申込フォームまたは官製はがきに、希望の時間・保護者の氏名・子どもとの続柄・住所・電話（緊急連絡先）・子どもの名前・子どもの人数・性別・年齢（月齢まで）明記。応募者多数の場合は抽選となります。抽選の如何に関わらず結果は通知いたします。